

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ヤナギムシガレイ

学名 *Tanakius kitaharai*

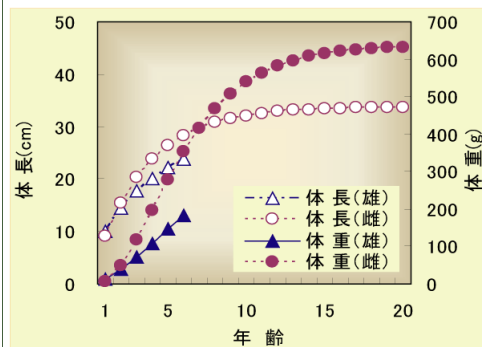
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雄6歳、雌20歳(ほとんどの個体は10歳)
成熟開始年齢: 2歳(雄の大部分、雌の一部)、3歳(雌の大部分)
産卵期・産卵場: 1～6月(ピークは1～3月)、仙台湾以南の沿岸各地
索餌期・索餌場: 周年、水深50～400mの砂泥域
食性: 多毛類と甲殻類が主要餌生物
捕食者: 不明

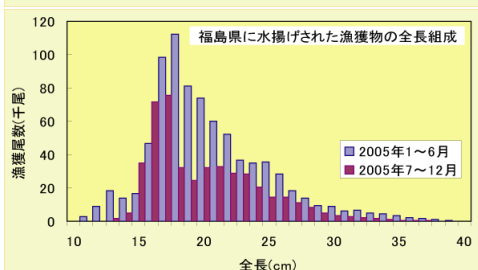
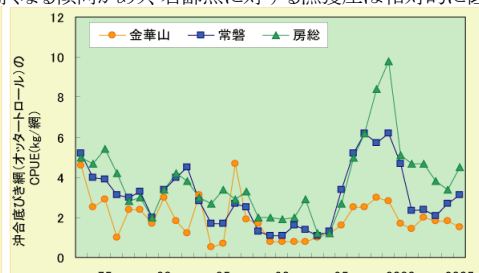
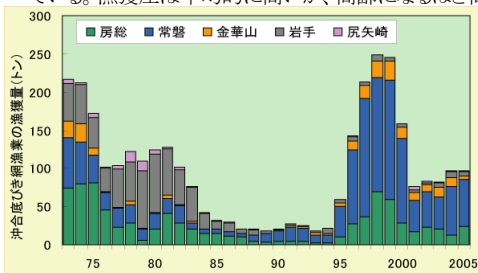


漁業の特徴

太平洋北部海域では、沖合底びき網漁業で最も多く漁獲され、次いで小型底びき網漁業が多い。本来南方系の種で、本海域の中でも南側に位置する福島と茨城で漁獲が多く、北側の青森と岩手では少ない。漁獲水深帯は水深50～200mで、繁殖期の冬場には80～100mで多く漁獲され、その他の時期には120～140mで多い傾向がある。

漁獲の動向

沖合底びき網漁業の漁獲量は、長期的に大きく変動している。近年では1990年代中盤から増加傾向を示し、1998年と1999年には240トン以上になり過去最高を記録したが、その後減少した。最近5年間は76～90トンで比較的安定している。漁獲圧は平均的に高いが、高齢になるほど高くなる傾向があり、若齢魚に対する漁獲圧は相対的に低い。

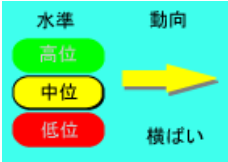
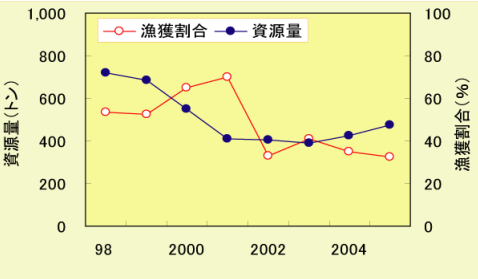


資源評価法

1998～2005年に茨城県もしくは福島県で漁獲されたヤナギムシガレイについて、年別前後期別(1～6月と9～12月)雌雄別のage-length keyを作成した。それと漁獲尾数をもとに年齢別漁獲尾数を求め、1～5歳以上の5年齢群についてコホート解析により資源量を推定した。

資源状態

資源量は1998年には700トン以上であったが、その後減少した。2001年以降の動向は横ばいであり、390～470トンで推移している。安定した加入があることが近年の資源の安定につながっていると考えられる。2005年の1歳魚の加入は2000～2004年の平均値とほぼ同じレベルである。



管理方策

1990年代後半の漁獲量増加は、複数年にわたる卓越年級の発生によるものである。これまでの沖合底びき網漁業のデータから、10年以上の長期間にわたり卓越年級が発生しない時期もあったと考えられる。また、本種の抱卵個体は市場価値が非常に高い。そこで、親魚までの生残を高めることを管理目標とした。資源水準が中位、動向は横ばいであること、今後加入が少ない可能性もあることからF30%に0.8を乗じたものをFlimit、Flimitにさらに0.8を乗じたものをFtargetとし、ABCを算定した。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	104トン	0.8F30%	0.27	26%
ABCTarget	86トン	0.8・0.8F30%	0.22	23%

- 年は暦年
- F値は各年齢の平均

資源評価のまとめ

- age-length keyにより年齢別漁獲尾数を求め、コホート解析により資源量を推定
- 1990年代後半に比べて資源は減少したが、近年は横ばいである

管理方策のまとめ

- 過去に卓越年級が10年以上発生しなかった時期がある
- 親魚は商品価値が高いので、親魚までの生き残りを高めることが生物学的、社会的に重要である
- 漁獲圧を0.8F30%にすることにより、親魚量を確保しつつ資源を高い水準へ回復させることが見込める

資源評価は毎年更新されます。